



# われもこう

題字 辻川 雅子さん



## 聴覚障がい者の暮らし

下川 涼子

未熟児で生まれた私が1歳の時、よちよち歩きをされていて、母が後ろから呼んでも振り向きもしないことに「おかしい」と思い、保健所に相談し病院を受診しました。そして「聞こえていない」という診断にショックを受けたそうです。

私は3歳からろう学校の幼児部に入りました。ずっとこのままろう学校に通うと思っていたのですが、周りからの勧めもあって、中学校から地域の学校へ通うようになりました。言われるがまま入学し、私自身も何とかなるものと思っていたのですが、現実は大きく違って聞こえないことへの理解が全くなく、私にとってよい学校生活ではありませんでした。「特別扱いほしくない」という方針のもと、先生の口の動きを読み、黒板に書かれていることを写すという単調な毎日でした。しかし、短大に入ると、理解ある先生に出会い、地域の手話講習会に足を運び、手話での交流の楽しさを味わうことができました。

次男が幼稚園在園中、同じクラスのお母さん Mさんから「私に手話を教えてください」と

言われました。他にも教えてほしいというお母さんが5名程度おられ、そのお母さん宅に訪問するかたちでの私の手話講師業が始まりました。

長男が小学校に入学した時、MさんとTさんが校長先生に「PTA 活動の一環として手話サークルを作りたい」とお願いしました。そして「手話サークル」が立ち上がりました。長男と次男が小学校在学中9年間+1年間の10年間、手話を通じて私は多くのお母さんと出会うことができました。そして自治会の活動にも参加するようになりました。避難訓練に参加した時、ご近所の方もおられ、顔は知っていても話をしたことはなかったのですが、この訓練がきっかけで、お話をするようになり、聞こえないことへの理解をお願いできたのです。その後は、地域の学校で「聞こえないことでどんな不便なことがあるのか」という話をする機会をいただき、周囲の理解も広がっていきました。そのような中で、いつしか私自身のポジティブ・スイッチを押せたのだと思います。

聴覚障がい者にとって不安なことは、災害



(火事や地震など)に気づくのが遅れるということ。以前、隣の家が火事になりました。反対側の隣の方がインターホンを何回も押し、玄関ドアを叩いて知らせてくださっていたにも関わらず、夜間だったので気づかず寝ていました。私の家のインターホンは、「音」ではなく「フラッシュ」(点滅)して知らせます。フラッシュに気づいたのですが、イタズラだと思って寝ていました。あまりにフラッシュが続くので窓を開けると、煙と臭いで火事だと気づき、慌てて上着を着て外に避難しました。消防署の方が「もう 30 分程度で消火できると思うので、寒いですが待っていてください」と状況を伝えて下さり一安心しました。もちろん、火事に気付くのが遅かったのは問題ですが、状況(情報)がわからないことも不安が増す一因になります。

そして、新型コロナウイルス感染症の流行という新たな問題が occurred。聴覚障がい者は手話だけでなく、相手の表情や口の形から情報を読み取ります。誰もが感染予防のためマスクをしています。例えば、スーパーでは、レジスタッフの口元がマスクで隠れていて、何を話しているのかわかりません。「レジ袋が必要ですか?」「お箸は必要ですか?」コンビニでは「温めますか?」などと聞かれても全くわからないのです。笑っているのか、怒っているのかマスクで表情が分かりにくいのです。また、もし感染した場合、入院先へ手話通訳者が入れるかどうかなど多くの不安がありました。マスクを外してもらえるとありがたいのですが、感染防止の一つであり、危機感

も理解できるだけに「マスクを外してください」とは言えませんでした。感染予防のためのマスクは、コミュニケーションに不便と不安をもたらしました。透明のマスクがあればいいのにとさえ思いました。

現代は、個々に携帯電話を持つ人が多く、メールなどのやりとりができるようになりました。つまり「音声(聴覚)」だけでなく「文字(視覚)」でのコミュニケーションがより便利になったのです。私のスマホに、相手が「音声入力」すると「文字表示」ができるのです。IT 化は、私にとってとても便利なものとなっています。

聴覚障がい者は後ろから呼びかけられてもほとんどの人は気づきません。無視をしているわけではないのです。また、発声できても聴覚に障がいのある人もいて、聞こえないことに周囲が気づきにくいこともあります。反応がなければ軽く肩を叩いて正面にまわってコミュニケーションをとってください。聴覚障がいのある方でも手話ができない方が多くいるので、身振りや筆談など手話以外の方法をあわせて使って下さい。

- ①相手の口形や表情に注目しましょう。
- ②身振りなど、他の方法も使いましょう。
- ③わからない時は聞き返してください。
- ④わかろうという姿勢で接してください。

多くの人とコミュニケーションがとれるようになればよいと願っています。





## 運営推進会議のご報告

小規模多機能型居宅介護は、運営推進会議で、ご利用者家族や地域の方と事業報告・協議をし、評価を受けています。

### くらし創造の家 朋(とも) 2月14日(水)

#### 1. 利用者状況報告

ご利用者の皆様に「人生最期をどう迎えたいか」を意思表示ができるうちに考えていただく。定期的、或いは状態が変化した時は、再度確認する必要がある。また、経管栄養など医療処置に関してもご家族だけでなく、ご本人の意思確認をする。自己決定を尊重する。

#### 2. 感染症対策について

インフルエンザ A 型が流行していたが今は B 型が流行。ご利用者、スタッフが感染したが、「通い」の一時的な制限をかけ蔓延の防止ができた。今後も感染症対策を継続する。

#### 3. ご利用者アンケートの結果をふまえて

〈食事内容について〉アンケートでリクエストが多かった揚げ物や炊き込みご飯は献立に入れている。巻きずしの要望もあったが、のりを噛み切れない利用者もいらっしゃるので、薄焼き卵に変えて対応する。

〈スタッフの名札装着について〉スタッフの名前が覚えられないというご意見があり、他施設では玄関にスタッフの写真と氏名が掲示されているところもあり、検討する。

#### 4. 感染症対策について

利用者の症状はさまざまに適切な対応が難しいこともあり、感染症対策はまだまだ不十分な面がある。BCP などが重要だと改めて感じた。

### 小規模多機能型居宅介護あすなろ 1月31日(水)

#### 1. あすなろ事業報告

##### ①レクリエーション・行事の実施報告

今までのあすなろレクリエーションの様子を会議で紹介(パステルアート・季節ごとの手作り作品創作活動・カレンダーづくりなど)。今後は、地域の人を巻き込んでレクリエーションを充実させていきたい。

#### 2. 地域交流センターの活動報告

①子育て支援事業➡悩みのある人の相談も専門員が対応している

②犬・猫譲渡会➡飼い主が高齢になった人の犬猫を預かり譲渡したケースもある

③セミナー順次開催予定

#### 3. 感染症対策について

抗原検査を現在も毎週 1 回実施。市から配布の抗原キット保管(有効期限 2024 年 7 月)。利用者や職員がたまたま罹患することはあるがクラスターにはなっていない。

#### 4. その他

Q. 1 月に能登地震があったが、あすなろの耐震や備えについてはどうなっているのか。

A. あすなろ建設時(2015 年オープン)は耐震基準もクリアしている。有事には食料品の備蓄もあり、あすなろが地域の避難所になる可能性もある。能登地震の状況を見ていると事前準備がされている所とそうでない所の差がある。今後も対策を怠らないようにしていく。

## くらし創造の家 朋(とも) 小規模多機能型居宅介護

在宅の利用者様でも、なかなかお出かけの機会がないという方がたくさんいらっしゃいます。寒い季節だとなおのこと。たまには外出で気分を上げてほしい！そんな思いから、イオンのフードコートに行ってきました。マクドナルドの横の席を陣取ると、みなさん緊張の面持ちでキョロキョロ。店員さんにコーヒーを提供されると、よそ行きの表情も。次第に「若

い頃はよう来たね」などと利用者様同士の会話も弾み、いつもとちがう雰囲気の中、和やかなカフェタイムになりました。

ひなまつりには、恒例の顔ハメパネルが登場。なりきりお雛様&お内裏様の手には、すりこぎ(笏)とフライパン返し(扇)が！ すまし顔ならぬ、笑い顔で、かつての少女たちの楽しいショットが撮れました。



### 地域交流センターあすなろ

「エッグアート体験教室」

2月22日

文字通り卵の殻(エッグシェル)を使ったクラフトの体験教室第3回を開催しました。和気あいあいとおしゃべりしながら、自画自賛の「かわいいー」と声があちらこちらから出て楽しい時間を過ごしました。



### 事業所 だより

「日々の暮らしでできるフレイル予防」

2月28日

フレイルは、加齢に伴い心身の活力や生活機能が低下した状態のこと。“コロナ自粛”の影響を感じられるこの頃、高槻市長寿介護課の出前講座で、日常生活の中から健全な状態に戻すヒントを学びました。





## 訪問介護

昨年の2月より訪問介護にお世話になっています。ブランクがあつての訪問介護で身体介助ができるだろうかなど不安ばかりの毎日で、眠れない日々が続いていました。一人で訪問して支援していく気構えが必要でした。情報を共有し引き継ぎをしてもなお不安でしたがどんどんケアは増えていきます。昔から「挨拶ははっきりと大きな声で」たまに「うるさい」と怒られる事もありますが(笑)。「優先順位」「押し付けはしない」「敬語を使い敬う」「時間を守る」を心に刻みながら励んできました。一人ひとりの利用者様に寄り添いながらも、「何

か違う」と感じた時は無理をせず自己判断せずに報告しています。障がい者と高齢者の介護は介護には変わりありませんが、微妙な接し方の違いを感じています。訪問介護はケアマネージャー、障がい福祉は相談支援員、先輩に相談もしながら、他事業所と連携を持ち、チームとして「訪問介護」の役割が果たせたらいいと思います。訪問介護は日々の生活にもっとも近いと思います。異変を見つける事の重要性を感じ報告義務を怠らず、長く在宅で、その方らしくお暮し頂けるよう支援していきたいと感じています。(〇)



## 小規模多機能型居宅介護 あすなろ

あすなろでは、毎月お誕生日会を開催しています。その月に誕生日を迎えるご利用者の皆さまをお祝いしています。このイベントは、日頃の感謝の気持ちと、健やかにまた一歳を重ねられたことの喜びを分かち合う特別な時間です。毎月愛情を込めて手作りのバースデーケーキでお祝いします。お誕生日

会では、ご利用者の中でピアノが上手な方か職員のピアノの生演奏に合わせて歌をうたい、ご利用者の皆さん・職員一人ひとりからお祝いのメッセージを贈ります。中には、メッセージに感動されて、涙をポロっと流される場面も…。最後は、この日の主役のご利用者にお返しのお言葉をいただきます。



## 研修実施報告

# 緊急時の対応—訪問するとご利用者が倒れていた！—

1月18日(木)



訪問するとご利用者が倒れていた！その時、パニック状態にならず落ち着いて対応ができるようにと、1月18日(木)クレド訪問看護ステーション管理者の藤井さちみ氏をお招きして「緊急時の対応」の研修を実施しました。いつものようにご利用者宅を訪問すると、ご利用者が倒れているのを発見しました。まずは、ワーカー自身が深呼吸！そして観察のポイントとして、「意識」「呼吸」「脈」「血圧」「熱」「痛い箇所」「顔色・肌色」「室内の状況」など。そして、どこでどこがいつからどうなったか、いつもと違うことはなにかという状況を把握し連絡することが重要だと学びました。日頃から、緊急時の連絡先を把握していることが大切ですね。

## 「訪問介護」は、すごい！モチベーションアップ研修

3月12日(水)



自分自身が健康で、ご利用者を支えていくにはどうすればよいのか。どうすればモチベーションがアップできるのか。そのヒントを学ぶために、3月12日(火)「訪問介護」は、すごい！」と題して(株)トップケア 安心ハウス万葉館の副館長 吉留敦子氏に出講していただきました。

『私はスタッフに「いってらっしゃい」「おかえり」「ありがとう」といつも言っています。初めの頃はみんなから「当たり前のことをしているのに気持ち悪い」と言われましたが、今ではスタッフみんなが挨拶をする職場になりました。それは、「一人ではない」「チームを作る」「皆で手を取り合う」という点で自分が生きていく必要性を感じられる機会を得ることになります。自分の存在を肯定できる場であるということです。』『皆さんは人生の先輩と出会いさまざまな生き方を学べる素敵なお仕事をされています。笑顔を忘れずにいきましょう。』最後に受講者が感想を話し、自分の「思い」も伝えることができました。少し心が温まる研修となりました。ありがとうございました。

## 「ご利用者アンケート」ご協力ありがとうございました

社会福祉法人高槻ライフケア協会は、さらなるサービスの質の向上と改善に向けての取り組みとして、昨年秋に「ご利用者の満足度を調査するアンケート」(無記名)を実施いたしました。全事業所で実施し171名から回答をいただきました。多くのご利用者・ご家族にご協力をいただきました。感謝申し上げます。集計結果はご利用者に配布、またホームページにもアップいたしました。今後も、より質の高いケアに繋がるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## サービス提供実績(2023年12月～2024年2月)

### 《訪問介護》

利用者数	135 人
利用時間	1652.5 時間
生活援助	347.0 時間
身体介護	668.5 時間
身体生活	637.0 時間

### 《障害福祉・居宅介護》

利用者数	218 人
利用時間	3020.5 時間
家事援助	1398.5 時間
身体介護	1380.5 時間
通院介助	241.5 時間

### 《介護予防訪問介護》

利用者数	88 人
利用時間	632.5 時間

### 《重度訪問介護》

利用者数	6 人
利用時間	211.0 時間

### 《ケアワーカー派遣サービス》

利用者数	48 人
利用時間	136.5 時間
家事援助	116.5 時間
身体介護	20.0 時間

### 《同行援護》

利用者数	95 人
利用時間	1162.5 時間

### 《移動支援》

利用者数	138 人
利用時間	1247.0 時間

### 《小規模多機能型居宅介護》登録人数平均

くらし創造の家 朋(とも)	22.6 人
あすなろ	19.6 人

### 《短時間デイサービス》利用人数平均

地域交流センターあすなろ	0 人
--------------	-----

## 5月開講 同行援護従業者養成研修申込受付中！

〈会場〉くらし創造の家 朋(とも) 高槻市富田町4丁目17番10号

〈受講料〉一般課程 20,000円 応用課程 17,000円 両課程受講 36,000円

一般課程	5月14日(火) 9:00～17:30 開講式・講義
	5月15日(水) 9:00～17:00 講義
	5月16日(木) 9:00～18:30 講義・演習・閉講式
応用課程	5月22日(水) 9:30～16:00 開講式・講義・演習
	5月23日(木) 9:30～17:00 講義・演習・閉講式



★高槻市障がい福祉サービス従事者養成研修費補助金対象

\*令和7年度カリキュラム改定あり



## 後援会解散のお知らせと御礼

高槻ライフケア協会後援会  
会長 古井 ひとみ

長きにわたり皆様のご支援により運営しておりました「高槻ライフケア協会後援会」でございますが、誠に勝手ながら令和6年3月31日をもちまして解散することに致しました。契約による介護保険や障害福祉サービスの制度もすでに根付き、福祉サービス制度が一定の完成をみた今日現在、本会の役割はすでに終わりを迎えているのではと考えました。しかしながら福祉サービス制度の黎明期においては、本会が社会に果たした役割は意義のある大きなものだったと思っております。また、会員の皆様のご支援には大きく感謝申し上げます。重ねて、会長として御礼申し上げます。残りまして後援会の資産 284,434 円は、後援会より社会福祉法人高槻ライフケア協会へ寄付いたします。長きにわたるご支援、ありがとうございました。

### 物品販売について

好評の**コーヒー(豆・挽)**と**たこ飯の素**につきましては、NPO 法人高槻ライフケア協会が引き続き販売いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします

連絡先/あすなろ(072)668-3486

焙煎工房カフェ・ド・タイムリー  
高槻店から

✪コーヒー(豆、挽)  
500g 1,250 円



大阪産(おおさかもん)  
✪たこ飯の素  
2合用 550 円



### ✍ 編集後記

春の息吹が感じられる3月と4月は、多くの人にとって特別な時期ですね。桜の花が開き、新しい出会いが待っているこの季節は、別れと始まりの象徴でもあります。

暖かな日差しとともに、新たな希望と夢が心に芽生える、そんな素敵な時間を楽しんでください。(S)



社会福祉法人 高槻ライフケア協会

〒569-0806 高槻市明田町5番7号 TEL(072)683-4945 <http://tlca.info/>